

平成 29 年度 第 1 回三条市バイオマス利活用推進会議記録

- 1 日 時 平成 29 年 8 月 24 日 (木) 午後 2 時～ 2 時 50 分
- 2 場 所 三条市役所 4 階 第三委員会室
- 3 出席委員 相場 弘介 加藤 秀明 金子 誠 桐生 竜治 深水 治夫
星野 正義 石川 友意 鈴木 浩一 広山 誠一 若林 和茂
平野 秀勝 藤家 憲 (以上 12 名)
(欠席委員 西潟 一博)
- 4 オブザーバー SGET グリーン発電 O&M(株) 伊藤 望
- 5 市出席者 渡辺市民部長 小林課長 五十嵐課長補佐 梨本係長
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議概要

- (1) 開会
- (2) 市民部長あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) 議事

ア 会長・副会長の選任について

事務局から、会長、副会長の選任については三条市バイオマス利活用推進会議規約第 5 条の規定により委員の互選である旨説明し、選出方法について委員に諮ったところ、事務局一任の声あり。事務局として会長に星野委員を、副会長に若林委員を提案した結果、全会一致で承認された。

イ バイオマス活用推進計画の進捗状況等について

事務局から、資料 No. 1 により説明後、質疑に入る。

広山委員：資料 7 ページに木質バイオマス発電所の稼働により間伐材の価格高騰によってペレット用材料との競合が懸念される旨記載されているが、実際はどういう状況だったのか（相場委員に）伺いたい。

相場委員：平成 28 年 12 月からは間伐材が市中に出回っていなかったという事実はあったが、直接的な影響はなかったと思う。

広山委員：原油価格の安値安定傾向が続くと見込まれる中、市として今後のペレット施策の方向性についてどう考えるのか。

事務局：バイオマス活用推進計画策定当時の原油価格は高値であり、木質ペレットの方が価格的に勝っていたが、現在では原油価格が安値で移行しており価格競争力が低下している。このように当時の背景から変化はあるものの、公共施設に設置したペレットボイラー、ペレットストーブへの燃料供給も必要であり、市のバイオマス利活用施策としても木質ペレットについては市内で安定的に製造されることが望ましいと考えている。とはいえ、現状では市内にペレットを製造

できる事業者がない中で、当面は市外の事業者から購入することで、燃料供給体制を維持しつつ、まずは年内をめどに市内でペレット製造をしていただける事業者を探索するなど、木質バイオマスの地産地消の方向性を作っていきたい。

金子委員：もみ殻の主な変換・処理方法で暗渠資材、農地還元、堆肥化とあるが、それぞれどれくらいの割合で利用されているのか。また、もみ殻の処理には農家の方が苦勞しているという事実があるが、もみ殻の利活用を拡大する考えはあるか。

事務局：暗渠資材、農地還元、堆肥化それぞれの割合については現状で把握していない。もみ殻の利活用については、現在では完熟堆肥化センターで副資材（水分調整剤）として利用されている。他自治体ではもみ殻を利用した苗床やペレット、固形燃料などの事例もあり、今後の研究課題である。

星野会長：生ごみの搬入量が全体的に減少している中、排出事業者としても分別排出にもっと取り組んでいく必要があると考えるが、事業者の現状はどうか。

石川委員：現状では分別の手間の発生などの課題によりなかなか難しいところではあるが、分別に取り組んでいく必要はあると考えている。

星野会長：緑のリサイクルセンターについて、平成 26 年度から処理手数料を無料化していることもあり、搬入量が年々増加している。事業者は顧客から処理手数料をもらっているのだから、事業者が搬入する分については手数料を徴収しても良いのではないか。

事務局：現状では事業者がどの程度、委託者から処理手数料を徴収しているのか把握していない。今後、必要に応じて調査を行い、委員の皆さんからも御意見をお伺いしながら検討したい。

(5) その他

事務局からバイオマス発電所視察について説明

(6) 閉 会

バイオマス発電所へ視察